

ふるさと歴史散歩

〔第72回〕 道隆寺⑮

道隆寺下遺跡の調査で、大変珍しい蹄脚円面硯と透脚円面硯の三点が、いずれも破片ではあるが、北トレンチ内に限られた範囲内から発見された。北トレンチの北側は、すでに住宅が建っているため調査は不可能だが、この遺跡の当時の生活拠点は、これらの住宅の地下深いところに埋没しているものと推定できる。

古代には、文書事務を司る役人を「刀筆の吏」と言う。

これは古代において紙が貴重品であり、役人は木や竹を薄く削った札（木簡または竹簡）に筆で文字を書き、書き損じた際に小刀で削る必要がある、筆とともに小刀が必需品であったからである。この言葉は元々、古代中国・前漢時代の歴史書『史記』に登場するから、たいへん古い言葉である。

中国では、紙が発明された後も木簡は晩くまで使われ、英国の探検家・スタインが、

西域のニヤ遺跡で晋代（4世紀）の木簡を発見し、現在、大英図書館が保管している。我が国でも、木簡の発掘例は戦前に数件あったが、殆ど注目されなかった。戦後においては、奈良の平城宮跡から大量の木簡が発見され、地下の記録文書として古代史研究者たちの熱い眼差しが注がれた。特に、長屋王邸宅跡出土の木簡は有名である。

発見された四点の木簡のうち、二点に墨書があり、その木簡は短冊状で、頭部二か所に紐をかけるための切れ込みがあった。一枚は「高田郡庸絶廿二足」と別の一枚には「久良下六俵入」と墨書されており、前者は高田郡で生産された貢物の絹製品を、後者は倭詰めにした海産物を、二つとも安芸国の特産物として発送するための荷札に使われたものである。

下岡田遺跡でも透脚円面硯が発見されており、遺跡が古代山陽道・安芸駅館の跡なので、これらの木簡は、駅館か近くの国庁の税担当の官人（役人）によって書かれたものと思われる。

府中町文化財

保護審議会会長

横田 禎昭

これと同様の木簡が、昭和39年、府中町城ヶ丘入口の下岡田遺跡・第二次調査の際に、井戸跡から発見された。平城京以外の地方で戦後発見された最初の物として、当時としてはセンセーショナルな話題を提供した。



下岡田遺跡から発掘された木簡



正しいごみ出しにご協力を

府中町環境センター ☎286-3266



ごみの 特別収集

午前8時30分までにごみステーションに出してください。

11/3 (火/祝)	北部	埋立ごみ・有害ごみ (第1回目火曜日地区) ペットボトル・紙パック・白色トレイ (第1回目火曜日地区) ※有価物は収集しません
	南部	普通ごみ(火・金曜日地区)
11/23 (月/祝)	北部	普通ごみ(月・木曜日地区)
	南部	有価物(月曜日地区) 新聞・雑誌・ダンボール・布類・ビン 缶・金属類

- ◆環境センターへのごみの持ち込みは受け付けていません。
- ◆ごみの種類を間違えないようにして下さい。

家電4品目の処分

家電4品目とは、エアコン、テレビ(ブラウン管・液晶・プラズマ)、冷蔵庫(冷凍庫を含む)、洗濯機(衣類乾燥機を含む)のことで、ごみステーションでの収集は行いません。「平成21年度版家庭ごみの正しい出し方」で、これらの詳しい処理方法をよく確認の上、処分してください。

なお、処分方法の1つである「指定引取場所へ持ち込む方法」は、廃家電のメーカーにより引取場所が2箇所に分かれていましたが、平成21年10月1日から、指定引取場所の共有化が実施されることになり、どちらの引取場所でも全メーカーの引取りができるようになりました。

「ごみの出し方辞典」

10月にごみの種類を50音順に一覧表にした冊子を、町内全世帯に配布しました。この冊子を参考にして、今後ともごみの分別とリサイクルにご協力をお願いします。なお、この冊子は、毎年、配布いたしませんので、保存版として、ご活用ください。